

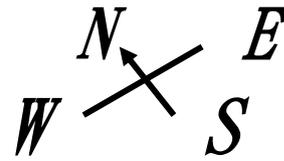
藤 沢

2020年4月1日

第311号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・新型コロナウイルス 特集
- ・生物多様性シンポ ・放射能測定値
- ・横浜にIRカジノいない

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

新型コロナウイルスを正しく恐れ、すべての市民は連帯を！！

新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、わずか数ヶ月でパンデミックと言われる世界的な流行となった。この感染症については、未だ不明の点も多い一方、多くのことが明らかになってきた。例えば、この感染症に罹患しても約80%の人は軽症ですむ、5%の方は重症化し、亡くなる方もいる、高齢者や基礎疾患を持つ方は特に重症化しやすく、進行するスピードが速い、気づかないうちに感染が市中に拡がり、ある時突然爆発的に患者が急増（オーバーシュート）すると、医療提供体制に過剰な負担がかかり、それまで行われていた適切な医療が提供できなくなることが懸念される。「オーバーシュート」が発生すると「ロックダウン(都市封鎖)」に追い込まれることになる。このような事態を回避し、できるだけ被害を小さくし（ゆっくり感染を広げ）、その間にワクチン開発を急ぐ。

(3/19 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言)。

この提言を正しく受け止め、科学的な理解に基づく国民・市民の協力・連帯がウイルス拡大阻止のカギとなる。そのためには、今、行われている検査や現場での対策について正確な科学的根拠を示し、国民に説明を尽くし、徹底した情報公開を行い市民の信頼を得ることで「国民・市民が安心できるシステムづくり」をすることが求められている。

ロックダウンして、都市や地域を封鎖しても感染者をゼロにはできない。ウイルスに対する「集団免疫」を獲得し、ウイルスと共生することで収束をめざす戦略を理解しよう。ワクチンができるまでは長期戦になることを覚悟しなければならない。

国内では2900人が感染、77人が死亡(3/31 現在クルーズ船含む)、神奈川県内では161例の内、死亡6人、感染経路は海外から25人、不明が41人で、このままいくとオーバーシュートするかも知れない。藤沢市では8例の内、1例は感染経路が分かっているが、他の7例は不明で油断はできない(3/31 現在神奈川県 HP)。感染経路不明の感染者がいるのは、自覚症状がない感染者がいて受診していないと考えられる。特に若年層の多くが無症状感染者または軽症であり、気づかずに感染を拡大させたのが北海道であった。オーバーシュート回避には、自覚症状がない感染者がPCR検査を受けられるしくみづくりが急務である。(次ページに続く)



花桃がきれいに咲いていた(石川)

とまどう市民 早く収束願う

新型コロナウイルスが中国から発生し、1月下旬、チャーター機で武漢から日本人の帰国が始まり、クルーズ船の中にも感染者が出たとの事で「指定感染症」になった。

藤沢市での感染者は3/31 現在8人、死者は無し。

日本中を震撼させているウイルス騒ぎは世界的流行（パンデミック）となっており進行中で収束の見通しもつかない。

大相撲や野球や劇場で観客無しは寂しい限りだ。

藤沢市は、3月2日に小中高学校の休校にふみ切った。これは安倍首相が2月27日突然に臨時休校にとの独断の要請によるものであった。同時に藤沢市の公共施設である公民館や市民の家、体育館、図書館などが一斉に休館となり、各種イベントも中止になり市民はどこでも出かけられなくなった。活動自粛という。

マスクと消毒液が売り切れ、トイレトペーパーも店頭から消えた。今は回復したようだが。

仕方なくテレビづけの日々を過ごし、緊急事態！！という言葉が頭に残る。まさに大パニックである。

症状が軽ければPCR検査は受けられない。

子どもたちは外遊びできなく、保護者は仕事を休んで対応、または祖父母に見てもらおうなどで、遊び場がなく運動すらできなかった。

高齢者はサークル活動ができなく閉じこもることで、元気が出ない。一方、商業施設は被害甚大、旅館もキャンセル、フリーランスの方も生活の糧が無くなり支援が当然となる。休んだ分の所得補償はどうなるのか決まらないはまだ。

東京オリンピックも延期と決まった。

政府は国民の不安に応え、責任をもって取り組み、専門家の意見を重視して方針を示し、所得・営業補償など大胆な経済援助をして、安心を示すべきである。

いつまで続くのか？

早く収束し平穏な日々になってほしいと願うばかりである。



感染を防ぐにはどうすれば？

正しい知識を身につけると同時に安心して暮らせる社会状況をつくり、フェイクニュースにだまされないことである。

専門家会議が提唱する「3つの要素=密閉空間・密集・密な接触」を避け、こまめな手洗いの励行とマスクエチケットが必須であるが、最も重要なことは、特效薬やワクチンがないのだから、感染しても軽症で乗り越えられるよう免疫力をつけると同時に、高齢者や基礎疾患のある方に移さないことである。

台湾で執られた対策が参考になる。台湾ではWHOが1/30に新型コロナについて政府は緊急事態宣言を発表した直後、2/2の時点で一斉休校の方針を決定。学校現場と協議、再開に向けたルールづくりや体温計・マスクの準備をした。さらに、衛生福利相（台湾CDCのトップ）に首相級の権限を与え、徹底した情報公開を行い市民に安心感を与えた。また、毎日、記者会見（医師や公衆衛生の専門家を中核とし、外交・経済・教育・運輸など各部の担当者が同席、それぞれが質問に答える）を行い、メディアから手が挙がらなくなるまで質問を受け丁寧に答え、会見が2時間以上になったこともある。勿論、ネットで生中継、LINE公式アカウントで、発表資料や生中継の案内が市民のスマホに届く徹底ぶり。

まとめ

世界や日本が初めて直面する危機である。

この危機を乗り越えるには、何より専門家（医学・疫学だけでなく、教育・産業・経済…）たちによる正確な知識の提供と冷静な判断の基に、首相級の権限を持った専門家が対策の指揮を執ることが重要である。

自分が感染することを警戒するだけでなく感染拡大を防ぐために連帯し、協力し合う必要がある。対策に当たる専門家集団への信頼が社会の不安を和らげ、現場での日夜奮闘している方々の声を吸い上げるしくみをつくる。ワクチン開発の加速や医療体制の充実、（PCR検査態勢の強化、集中治療室・病床の確保等）そして医師や看護師の安全確保と増員など医療を充実すること、また休業補償等経済対策に予算をつけ、自粛や休校、休館等による休業補償はきちんとすることなどが行政の役目である。（エコネット事務局）

子どものいない、校庭

2月27日、首相独断で、唐突に出された3月2日からの一方的な一斉休校「要請」。学校でも地域でも新型コロナウイルス対応をしている最中だった。あたりまえの日常を奪われ、子どもたちはどこへ消えたのか？

どんなにヤンチャといわれる子でも、卒業期には進路先が決まり、日に日に心が落ちついてくるものである。卒業文集を書くことで自分のことを振り返ったり、卒業式の合唱練習で気持ちが高まる。卒業アルバムをみて、成長を確認したり、一言を書きあったり、友だち関係がなごやかになって、やさしい関係ができていく3月のはずだった。部活では後輩とのお別れ試合、激励会があり、先生方も、卒業行事は子どもたちに任せて、卒業おめでとうと、と感じられる時期でもある。

その日々を子どもたちから奪った。不安にさせられ、個々ばらばらにさせられた。がまだけを一方的に強いられ、納得いく説明もなく、時には、地域の方からは「子どもが外で遊んでいる、いいのか。」など苦情さえ寄せられた。子どもをあたたく見守る共同体社会はどこに行ったのか。

休校には、専門家の意見、先生方、保護者、そして何より当事者の子どもたちの声を聞いてほしい。休校を決定する各市町村教育委員会の対応では、工夫ができるはずである。

藤沢市長と教育長に対して、学校の校庭や教室の開放、希望者への給食提供などを要望した市民の運動があった。その発展が、政治の暴走を止めさせることにつながることを期待して。（持田早苗）

「生物多様性シンポジウム」の開催

NPO法人「藤沢グリーンスタッフの会」（略称FGS）は初めて「シンポジウム」開催に取り組みました。2月23日は好天に恵まれましたが、あいにく「新型コロナウイルス」問題が取り沙汰されていたため、残念ですが当日にキャンセルされた方々もおられました、80名の方に参加いただきました。

慶応大学名誉教授である岸由二さんの「次世代に豊かな自然を引き継ぐために」と題した基調講演、FGS理事の活動報告、藤沢市みどり保全課職員の「生物多様

性地域戦略」の報告、参加者からの質問・講師の回答による意見交換の時間を含め2時から5時までの3時間はあっという間に過ぎました。



今回のシンポジウム開催の経緯は昨年2月、藤沢市みどり保全課主催で「藤沢市生物多様性地域戦略」策定記念・キックオフとして涌井史郎氏の基調講演をメインに開催された「生物多様性シンポジウム」の第二弾として、FGSが企画し藤沢市みどり保全課との共催事業として実現しました。

開催に当たり自然環境問題などに関心が高く、市内で活動をしている団体に呼びかけ、NPO法人「里地里山景観と農業の再生プロジェクト」「丸山谷戸援農クラブ」「藤沢探鳥クラブ」の後援、FGSが連携し緑地保全活動に取り組んでいる日本精工(株)、アズビル(株)藤沢テクノセンター、東レ(株)基礎研究センター、池上通信機(株)の協賛、日本大学生物資源科学部に協力をいただきました。

FGSは今回のシンポジウム開催を契機にステップアップを図り「多様な生物が息できるまち藤沢、市民と共生できる環境を保全し、次世代のこどもたちに、みどり豊かな自然を引き継ぐために」を目標に3ヶ年の「藤沢市みどり保全協働事業」で緑地保全活動を進めるとともに、市民・市民団体・企業・行政と連携し活動していきます。

（藤沢グリーンスタッフの会 荒井俊行）

横浜IRカジノに反対

昨年12月9日 神奈川区で、横浜市がおこなったIR（統合型リゾート）市民説明会、つまりカジノについての横浜市長も出席した説明会に、藤沢市在住ではあるが横浜市在勤の私は出席し、質問票に質問を書いて提出すると、会場で回答する最後の質問として16人目に見事取り上げられた。

質問：隣の藤沢市に住む者だが、43万人の藤沢市民もカジノによって破産、借金苦による自殺、家賃払えずホームレス、一家離散・一家心中など悲惨な被害を受ける市民が、何十人、何百人と出ることが考えられる。これら悲惨な藤沢市民に対して、横浜市は、何ら責任を感じないのか。

回答 横浜市長：全体のギャンブル依存症、日本で現在、起きているギャンブル依存症に対する対策も含めてしっかりやっていく。カジノについては、今日ご説明したようにしっかりと依存症対策をしていく。

シンガポールの例のように、カジノを開業する前から準備を整えた結果、依存症が減ったという、実際の数字も出ている。藤沢市民の方に対するご心配も、責任を持って対策を立てていくので、ご理解を賜りたい。

依存症対策をすると依存症が減るから、それで責任を持つ、という回答。しかし減るにしても悲惨な被害者は藤沢市民から出る。長年隣に存在する市の市民に悲惨な被害者が出る事について、心苦しさや後ろめたさを感じているとは受け取れない。

藤沢市はこれも踏まえて、横浜市に対してカジノ誘致についての再考を促すべきです。近隣市の市民は、もう立ち上がっています。「横浜IRカジノに反対する横浜市民以外の会」が3月23日横浜市役所に14人詰めかけ、県内各地など横浜市外からカジノに反対する市民の署名をそれまでと合わせて1463筆提出し、今後も署名を集めていきます。

署名提出先 事務局 〒242-0021 神奈川県大和市
中央 2-1-15-5F 大和法律事務所 弁護士滝本太郎
takitaro@yha.att.ne.jp FAX046-263-0375

(内藤 繁)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm			
3/23	小雨	藤沢駅JR改札口	0.043
3/23	小雨	藤沢サンパール広場	0.061
3/31	曇り	遠藤矢向公園	0.038

ECONET INFORMATION

▲戦争の加害パネル展

4/2(木)～4/9(木) 10:00-19:00

かながわ県民センター1階展示室

(横浜駅西口から5分) 入場無料

展示内容 平頂山事件 南京大虐殺 毒ガス兵器

マレー侵略 日本軍「慰安婦」など

▲浜辺を歩けば地球が見える、社会が見える!

海岸ウォーキングや観察会

葉山海岸 柴崎～森戸～葉山港コース

4月18日(土)・5月9日(土)

江の島生物観察会

4月7日(火)・26(日)

この他に講演会などあります

主催/お申込みお問い合わせ

エコストアパパラギ

0466-50-0117

又は fujisawa@eco-papa.com



▲藤沢エコネットから

新型コロナウイルス流行により 各種イベントは中止になりました

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 73 物IDネット

◆事務局会議4月6日(月) 14:30～会員宅

《編集後記》桜が咲き始めたのこの春、いきなり3/29に雪が降り寒い冬に戻った。季節外れの雪は3cmほど積りすぐ消えた。今号は「新型コロナウイルス」特集としてお花見もできない危機を乗り越えるための情報を掲載した。是非目を通していただきたい。

4月22日は本来ならアースディ「地球のことを考え、行動する日」として地球規模の環境問題の様々なイベントが催されるが、今年はそれも中止となり啓発の機会が薄れた。鎌倉においても「かまくら気候マーチ」が予定されていたが中止となり残念だ。新型コロナウイルスから身を守ることが先決だ。(H)